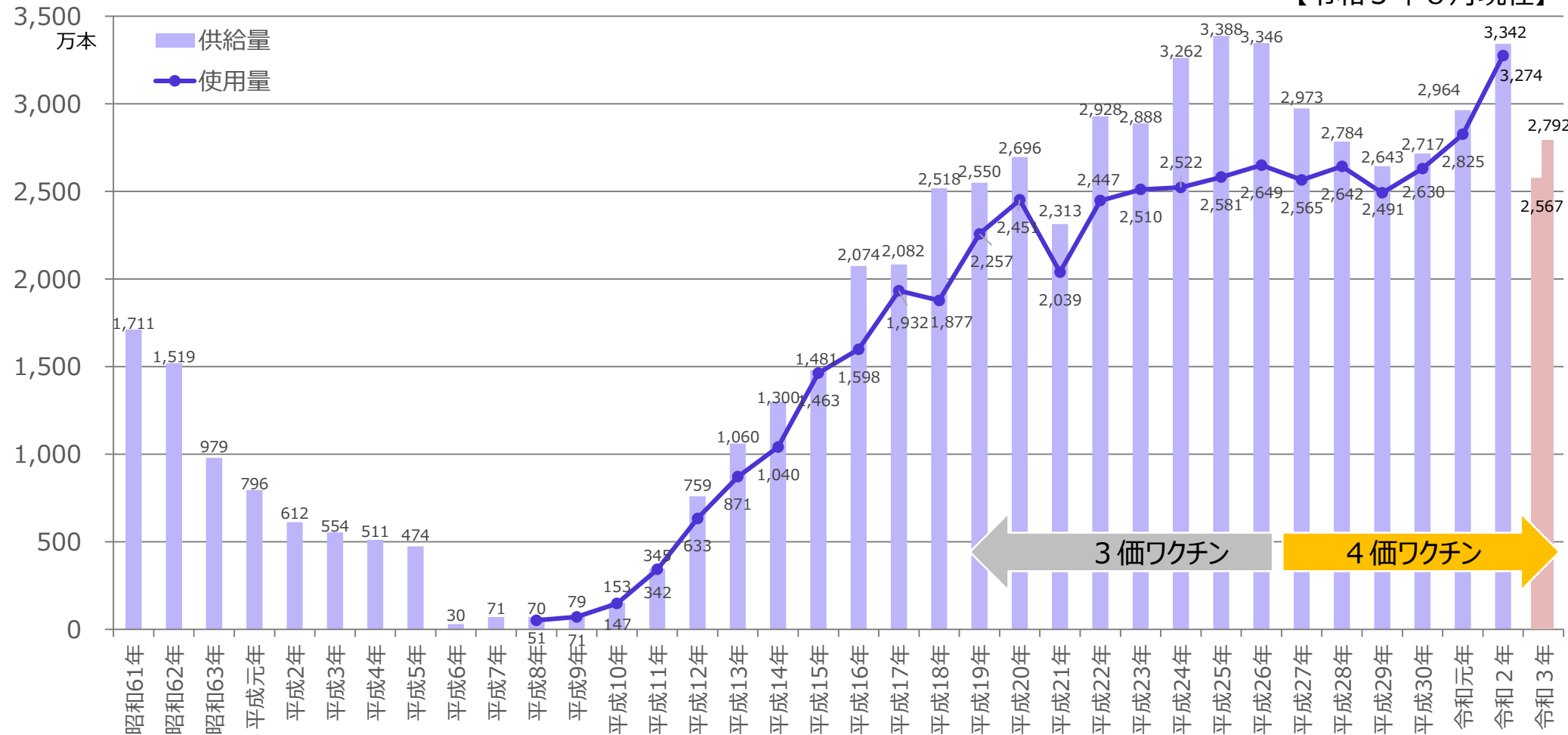


# 2021/22シーズンの インフルエンザワクチンの供給等について

# 2021/22シーズンのインフルエンザワクチンの供給量の見込み

- 今年度のインフルエンザワクチンは、製造効率等が特に良かった昨年度とは異なり、例年と同程度の製造効率等である。
- 平成8年以降で最大となった昨年の使用量と比較すると少ないが、例年の使用量に相当する程度は供給される見込み。

【令和3年8月現在】

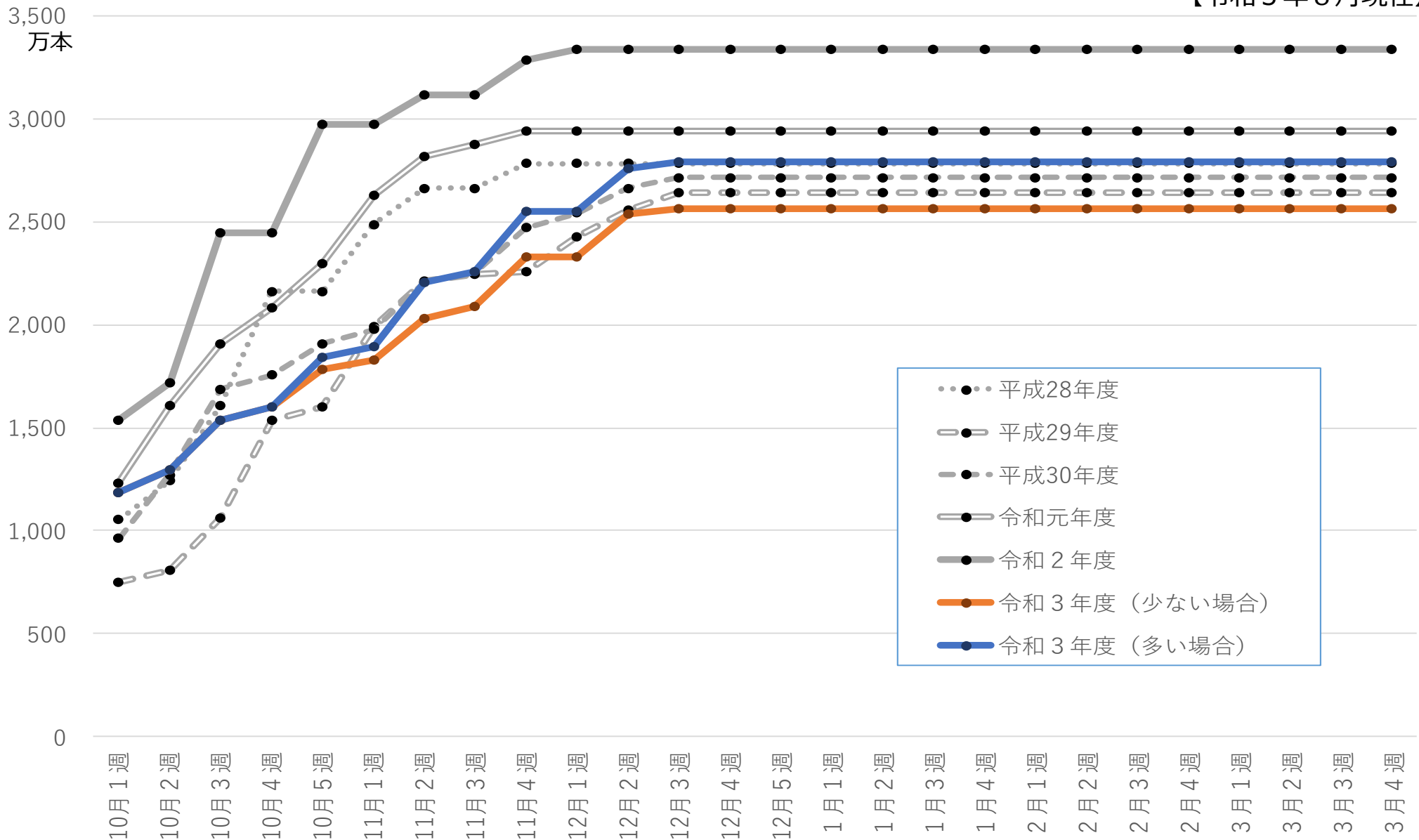


※1 平成7年以前の使用量は不明

※2 1mL換算

# 2021/22シーズンにおけるインフルエンザワクチンの供給（週次）

【令和3年8月現在】



注1) 供給量は、いずれも1mL換算。

注2) 週の表示は金曜日を基準としている。

注3) 令和3年8月現在でワクチン製造は完了していないため、製造効率の変動等に一定の仮定を置いて供給量及び供給時期を算出。

# 今シーズン（2021/22）のインフルエンザワクチンの供給に係る対応

## 今シーズンのインフルエンザワクチンの供給について

- 今年度は、昨年の使用量と比較すると少ないが、例年の使用量に相当する程度が供給される見込み。
- 製造資材の入手遅延等を受けて、昨年度よりも遅れたペースで供給される予定。12月中旬頃まで順次出荷が続く見込み。

## 今シーズンの対応（案）

- 今年度の供給量は昨年度の使用量よりも少ないことを踏まえ、ワクチンを効率的に使用し、できるだけ多くの接種機会を確保することが重要。
- ワクチンの効率的な使用等に係る取り組みとして、昨年度と同様に、ワクチンの効率的な使用について医療現場への働きかけを行うこととしてはどうか。

（昨年取組） インフルエンザワクチンの効率的な使用と安定供給を推進するため、2019/20シーズンまでと同様に、

- ・ 13歳以上の方は原則1回注射としていただくこと
- ・ 必要量に見合う量のワクチンを購入いただくこと

などについて、医療機関に要請する等の取り組みを継続することとした。

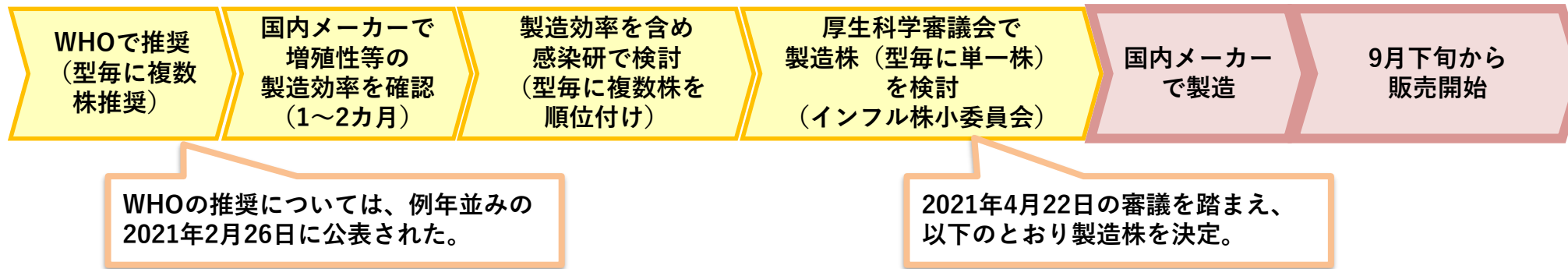
※ 製造販売業者等からは、昨年度のインフルエンザワクチン返品量は50万本以上（1mLを1本に換算）であったとの報告を受けている。

- ワクチンの偏在を防ぐために、ワクチンを供給する医薬品卸売販売業者に対して、地域間・営業所間の在庫融通を積極的に行うよう働きかけてはどうか。

# 参考資料

# 2021/22 シーズン向けインフルエンザワクチン製造株

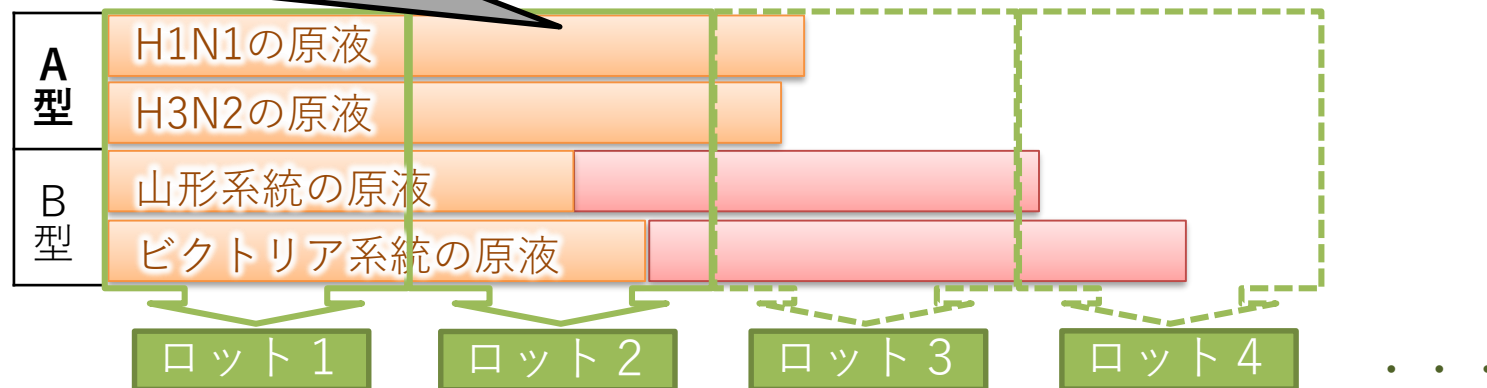
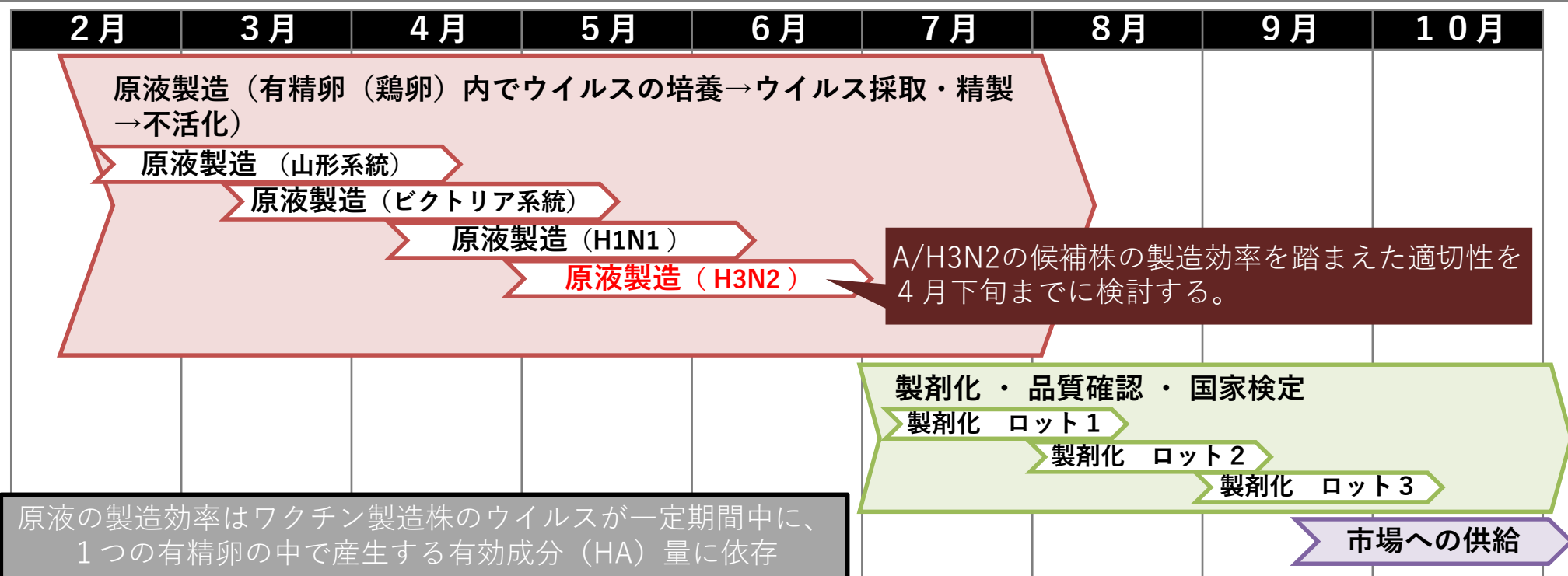
基本的な流れ



亜型	ワクチン製造株	製造効率 ※2021/4/22小委員会報告時点
A型H1N1	A/ビクトリア/1/2020 (IVR-217) (2020/21シーズンから変更)	49.9 $\mu$ gHA/卵 (対前年比：0.70)
A型H3N2	A/タスマニア/503/2020 (IVR-221) (2020/21シーズンから変更)	27.6 $\mu$ gHA/卵 (対前年比：0.88)
B型山形系統	B/プーケット/3073/2013 (2020/21シーズンの製造株と同一株)	45.9 $\mu$ gHA/卵 (対前年比：1.00)
B型ビクトリア系統	B/ビクトリア/705/2018 (BVR-11) (2020/21シーズンの製造株と同一株)	46.3 $\mu$ gHA/卵 (対前年比：1.00)

# ワクチン原液の製造のイメージ

2021年4月22日  
季節性インフルエンザワクチンの製造株  
について検討する小委員会 【資料1】



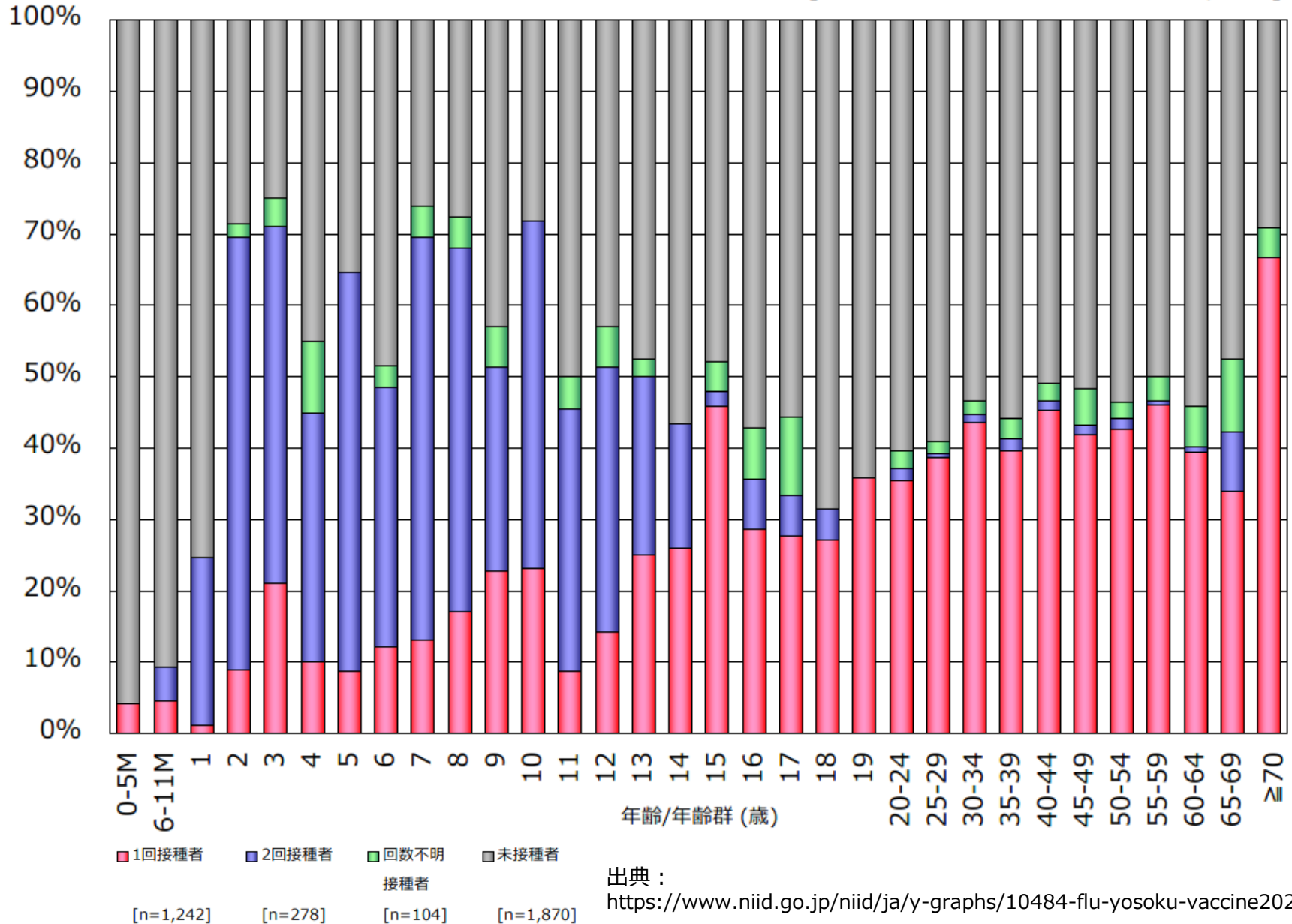
○ WHOが新規のワクチン製造株を2株（A/H1N1とA/H3N2）推奨した現状において、その影響を最小限に留めるには、4月下旬までにA/H3N2の製造株を確定する必要がある。

# (参考) 年齢/年齢群別のインフルエンザ予防接種状況, 2019/20シーズン

～2020年度感染症流行予測調査より～

2021年6月現在暫定値

[ 接種歴不明者を含まない / n = 3,494 ]



出典:

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/y-graphs/10484-flu-yosoku-vaccine2020.html>